

— 経営理念 —

ともに挑み ともに繋ぐ

常にお客様目線で上質な価値を創出する

— 行動指針 —

私たちは、全ての仲間と手を取り合い、
創出する喜びを分かち合います。

私たちは、失敗を恐れず、
常にチャレンジャーであり続けます。

私たちは、お客様と誠実に向き合い、
信頼される存在を目指します。

私たちは、こだわりと思いやりをもって、
心地良さの実現を追求します。

私たちは、法とその精神を守り、
安心・安全なものづくりを約束します。

株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 毎年6月に開催

基準日 定時株主総会の議決権 3月31日
 期末配当金 3月31日
 中間配当金 9月30日

公告方法 電子公告
 公告掲載URL <http://www.fkkasei.co.jp>
 ※事故その他やむを得ない事由によって電子公告
 できない場合は、日本経済新聞

単元株式数 100株

株主名簿管理人 三井住友信託銀行株式会社
 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号

郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先) 0120-782-031 (フリーダイヤル)



Interim Business Report

第109期 中間報告書

2019年4月1日～2019年9月30日



Segment Review

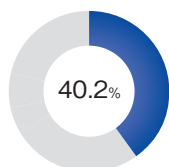
(単位：百万円)

コーティング事業



主要分野

自動車内装分野、自動車外装分野、
自動車電装部品分野、
容器関連分野、携帯電話分野、
家電分野、ホビー分野、
農業資材分野



売上高構成比

プラスチック用コーティング材（『レクラック』・『フジハード』など）を取扱うコーティング部門におきましては、主力の自動車向け分野において、国内市場の販売は前年並みに推移いたしました。この結果、売上高は113億2千3百万円（前年同期比6.5%減）となり、営業利益は2億9千6百万円（同63.3%減）となりました。

売上高

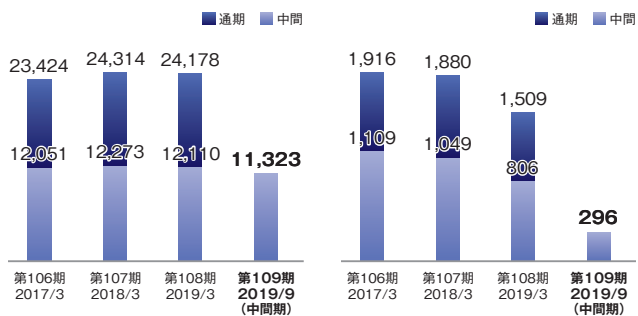
113億2千3百万円

(前年同期比6.5%減)

営業利益

2億9千6百万円

(前年同期比63.3%減)

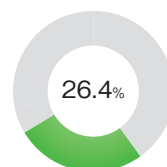


塗料事業



主要分野

外装建材分野、
内装建材分野、
エクステリア材分野、
住宅設備分野



売上高構成比

建築用塗料を取扱う塗料部門におきましては、新製品の投入や消費増税前の駆け込み需要の影響もあり、新築住宅向け塗料、リフォーム用塗料ともに好調に推移いたしました。この結果、売上高は74億3千2百万円（同15.2%増）となり、営業利益は6億1千4百万円（同40.1%増）となりました。

売上高

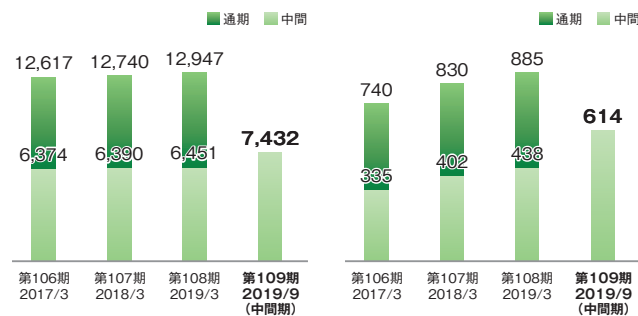
74億3千2百万円

(前年同期比15.2%増)

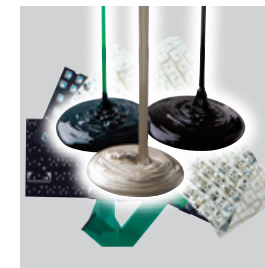
営業利益

6億1千4百万円

(前年同期比40.1%増)

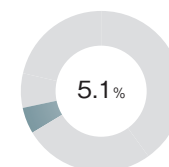


電子材料事業



主要分野

通信機器分野、
表示体分野、
家電分野、
車載用電子機器分野、
OA機器分野



売上高構成比

導電性ペースト材（『ドータイト』）などを取扱う電子材料部門におきましては、国内市場、海外市場ともにほぼ前年並みの売上で推移いたしました。この結果、売上高は14億3千5百万円（同0.5%減）となり、営業利益は7千万円（同41.2%増）となりました。

売上高

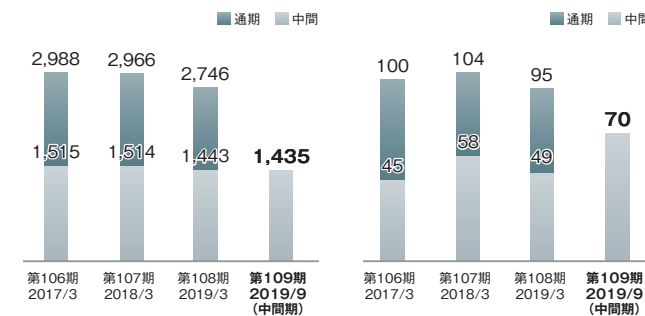
14億3千5百万円

(前年同期比0.5%減)

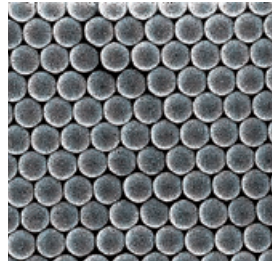
営業利益

7千万円

(前年同期比41.2%増)



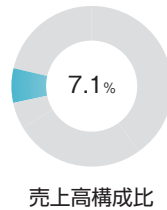
化成品事業



主要分野

トナー用樹脂分野、
電荷制御剤分野、粘・接着剤分野、
ディスプレイデバイス分野、
メディカル材料分野、
電子部品関連分野

トナー用レジ、樹脂ベース（『アクリベース』）やメディカル材料などを取扱う化成品部門におきましては、粘着剤などの機能材料分野の需要が減少いたしました。メディカル材料につきましては原料用ラテックスの販売は堅調に推移いたしました。この結果、売上高は20億1百万円（同0.7%増）となり、営業利益は1億8千3百万円（同37.7%増）となりました。



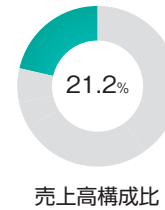
合成樹脂事業



主要分野

高機能光学材料分野、
工業用銘板分野、
産業資材分野

子会社藤光樹脂株式会社などが取扱うアクリル樹脂の原材料・加工品の販売におきましては、液晶テレビ向け商品の需要は減少いたしました。また、カーエレクトロニクス分野向け商品の販売も伸び悩んだこともあり売上高は減少いたしました。この結果、売上高は59億5千6百万円（同6.0%減）となり、営業損失は5千5百万円（前年同期は営業利益1億7千5百万円）となりました。

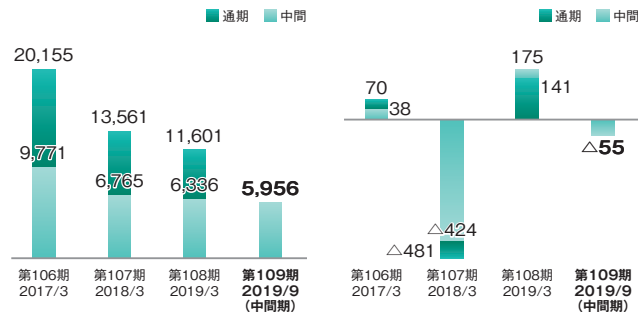
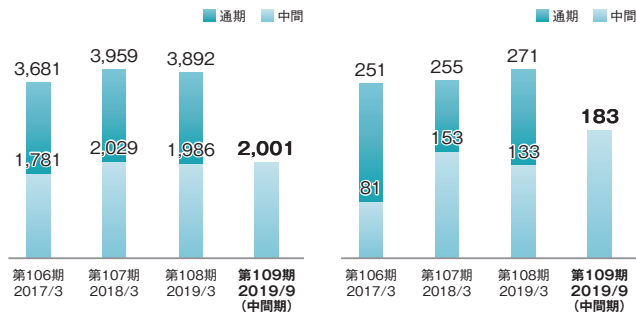


売上高
20億1百万円
(前年同期比0.7%増)

営業利益
1億8千3百万円
(前年同期比37.7%増)

売上高
59億5千6百万円
(前年同期比6.0%減)

営業損失
△5千5百万円



会社概要 (2019年9月30日現在)

会社名 藤倉化成株式会社
 本店所在地 東京都板橋区蓮根三丁目20番7号
 本社事務所 東京都港区芝公園二丁目6番15号
 設立 1938年9月22日
 資本金 53億5千2百万円
 従業員数 連結 1,305名
 単体 429名
 連結子会社数 国内 4社 海外 15社
 ホームページ <http://www.fkkasei.co.jp>

株式の状況 (2019年9月30日現在)

発行可能株式総数 84,000,000株
 発行済株式の総数 32,716,878株
 株主数 3,352名

TOPIC

第10次中期経営計画がスタートしました

当社グループは、2020年3月期を初年度とする3ヶ年の第10次中期経営計画をスタートいたしました。今回の中期経営計画は「次世代に繋げる新しい姿の追求」を基本コンセプトとし、10年後のビジョンを見据えてそれを実現するための目標を設定しました。

今回の中期経営計画では

- ・既存技術の展開や新技術による新市場参入への取り組み
- ・藤倉化成グローバルネットワークを活用したグローバル市場での売上拡大
- ・佐野事業所のリニューアル計画の推進
- ・グループ全体のリスク管理やガバナンス体制の強化を重点施策として進め、最終の2022年3月期の連結売上高656億円を目指してまいります。

To Our Shareholders

株主の皆さまへ

株主の皆さまには格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。
当第109期中間期（2019年4月1日から2019年9月30日まで）の営業概況等につきご報告申し上げます。

2019年12月

当第2四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、雇用や所得環境の改善により緩やかな回復基調で推移したものの、海外における米中の通商摩擦や英国のEU離脱問題などがあり先行き不透明な情勢で推移いたしました。

当社グループの関連する業界におきましては、自動車産業につきましては海外の自動車販売台数は低調に推移しましたが、国内における新車販売台数は前年を上回りました。また、住宅産業につきましては、新築住宅着工件数は前年同期を下回りました。エレクトロニクス産業はスマートフォン市場の成長鈍化などもあり厳しい市場環境となりました。

このような環境の下、当第2四半期連結累計期間の売上高は280億9千6百万円（前年同期比0.6%減）となり、営業利益は11億8百万円（同30.8%減）、経常利益は12億6千万円（同26.9%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は8億5千2百万円（同21.9%減）となりました。引き続き株主の皆さまにおかれましては、なお一層のご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

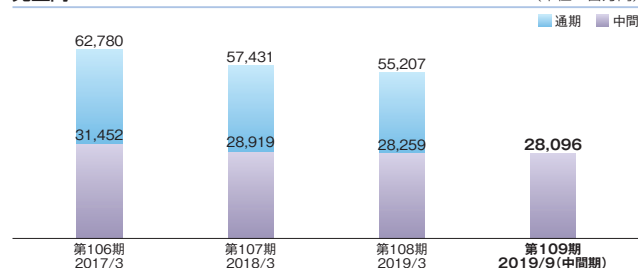
代表取締役社長 **加藤 大輔**

Financial Highlights

連結財務ハイライト

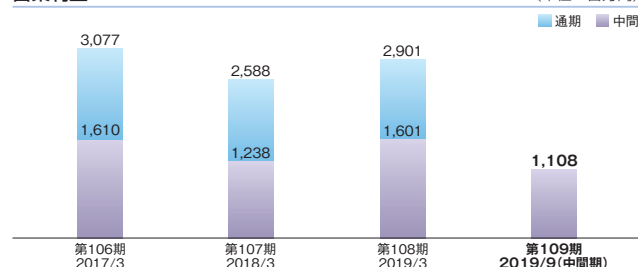
売上高

(単位：百万円)



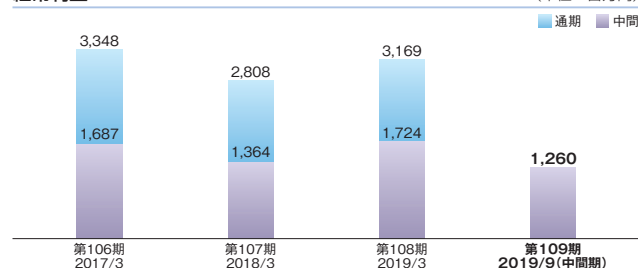
営業利益

(単位：百万円)



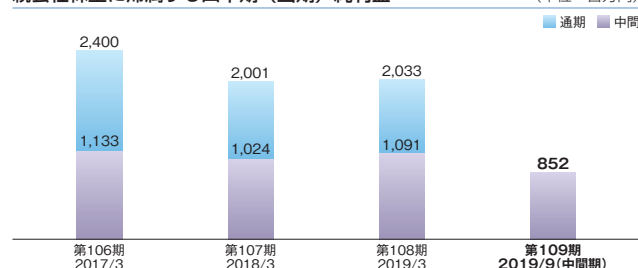
経常利益

(単位：百万円)



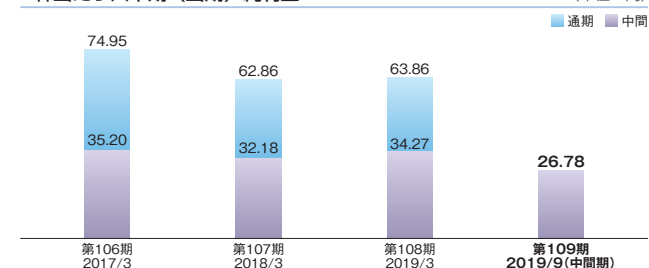
親会社株主に帰属する四半期（当期）純利益

(単位：百万円)



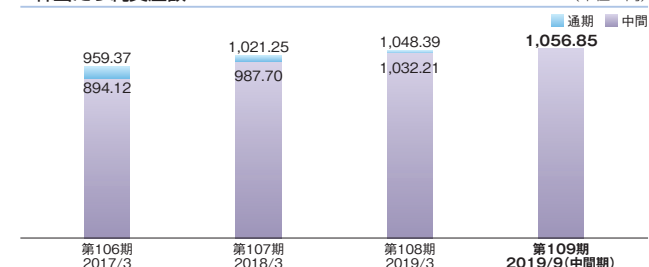
1株当たり四半期（当期）純利益

(単位：円)



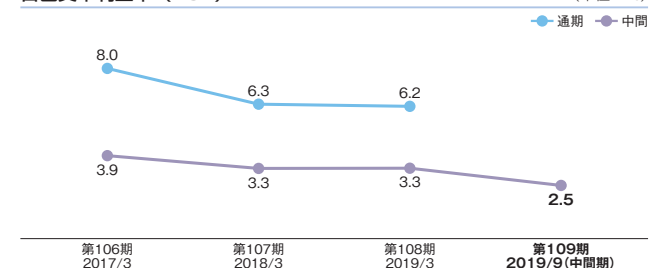
1株当たり純資産額

(単位：円)



自己資本利益率（ROE）

(単位：%)



総資産事業利益率（ROA）

(単位：%)

